

2008年3月18日

東レ株式会社

## コンポジット製品の開発機能を名古屋に移転・拡充 2009年4月「アドバンストコンポジットセンター (ACC)」を設置

東レ株式会社（本社：東京都中央区、社長：榊原 定征、以下「東レ」）は、このたび、名古屋事業場（愛知県名古屋市）に、コンポジット（炭素繊維複合材料成形品）製品の技術開発施設「アドバンストコンポジットセンター (ACC)」を設置し、愛媛工場（愛媛県松前町）にあるコンポジット開発センター、および愛媛工場と滋賀事業場（滋賀県大津市）にあるコンポジット技術部を移転することを正式に決定しました。「アドバンストコンポジットセンター」の建設に伴う投資額は約40億円で、2009年4月の移転・開所を予定しています。

東レは2006年10月より、経営のイノベーション（革新と創造）による高収益企業への転換を目指して中期経営課題“**Innovation TORAY 2010 (IT2010)**”をスタートし、その基本戦略の一つとして「重点4領域への先端材料の拡大」を推進しています。今回の決定は、重点領域の一つにあたる「自動車・航空機」分野に向けた先端材料事業の拡大を図るべく実施するものです。

東レは今回の決定を機に、名古屋事業場をコンポジット製品開発の中核拠点として位置づけ、同分野における開発機能を強化・拡充していきます。今後、コンポジット製品の設計、成形加工技術の深化をはじめ、熱可塑樹脂を適用した次世代コンポジット製品の開発、愛媛工場における炭素繊維、プリプレグ（炭素繊維樹脂含浸シート）開発との垂直連携を推進する一方、名古屋事業場で培ってきた樹脂・ケミカル技術の開発機能との融合や、本年6月に開所予定の自動車向け総合開発拠点「オートモーティブセンター (AMC)」との自動車分野における開発連携など、開発のイノベーションを推進していきます。また、名古屋事業場が自動車・航空機産業の重要顧客と隣接する立地の利点を活かし、顧客企業との共同開発体制の強化、開発のスピードアップを図ります。これらの取り組みにより、自動車・航空機分野を中心とする産業用途でのコンポジット製品の本格普及を推進し、炭素繊維複合材料事業の一層の拡大を目指します。

「アドバンストコンポジットセンター」は、名古屋事業場を従来のケミカル工場から「自動車・航空機」分野向け先端材料の中核工場に機能転換する一環として、同事業場内に「自動車・航空機」分野向けの総合技術開発拠点「A&Aセンター(Automotive & Aircraft Center)」を整備するプロジェクトの中核をなす技術開発施設です。「アドバンストコンポジットセンター」の設置により、現在建設中の「オートモーティブセンター」と既存の「樹脂応用開発センター」の3つの技術開発施設を合わせて「A&Aセンター」が完成します。

東レは名古屋事業場にコンポジット製品の開発機能を移転・拡充するのに引き続き、中期的には同事業場を自動車・航空機向けの高機能樹脂、コンポジット、高機能ケミカル製品の生産拠点として整備していく計画です。東レは成長領域である「自動車・航空機」分野向けの先端材料事業を強化することで高収益企業への転換を加速して参ります。

以上

### 【本件に関するお問い合わせ先】

東レ(株)広報室 TEL：<東京>03-3245-5179 <大阪>06-7688-3085